

平成25年度 糸魚川市社会科部 活動報告

部長 田村 雅人
(糸魚川市立浦本小学校)

1 研究主題

「実感に支えられ、自ら学ぶ社会科教育」

2 研究の概要

今年度の糸魚川市社会科部の活動は、糸魚川市立糸魚川東小学校「新潟県NIE推進協議会実践委嘱校 NIE研究中間発表会」と共催で実施した。研究主題を受け、具体的な社会的事象について調べたことを表現し、それを基にして考える学習を積極的に展開する授業を目指した。

3 研究の実際

(1) 指導案検討会

期 日：平成25年9月24日(火)

概 要：

糸魚川市教育研究会社会科部推進員で、授業者の指導案検討会を実施した。校内での検討を踏まえた指導案に対し、第三者的な視点からNIE実践校以外の教員が本指導案のよさや改善点を検討し合い、授業者としては参考になったようだ。

(2) 授業公開・協議会

期 日：平成25年10月11日(金)

授業者：八木 克洋 教諭

会場等：糸魚川市立糸魚川東小学校 5年「社会」

概 要：

当日の授業は、新潟日報と糸魚川タイムスの記事比較から入り、子どもたちが授業者とともに、新潟日報本社メディアシップや糸魚川タイムス社を訪問・見学した内容や、関係者からインタビューした内容について、視点を決め比較・検討した。子どもたちは自ら調査した内容や感じたことをいきいきと発表し、仲間の意見を熱心に聞いていた。普段の積み重ねがよくできていると感じさせる授業であった。

協議会では、授業を参観しての意見交換を中心に行った。子どもたちが学んできたことの活用の仕方、子ども同士のかかわり方が主な内容であった。本題材は社会科や総合的な学習の時間を用いて新聞社への訪問活動を行い、社会科の時間でその成果をまとめた学習の流れとなっている。社会科と総合的な学習の時間が有機的に結びついた学習活動であった、という意見が多かった。

授業協議会のまとめとして、糸魚川市教育委員会指導主事 松縄 隆之 様から授業や「社会科の現状と未来」についてのご指導をいただいた。参加した社会科部の部員一人一人が自らの社会科の授業実践を振り返るよい機会となった。

4 成果と課題

実際に2つの新聞社を訪問し調査したことを基に差異を考える活動は、子どもたちの実感を伴い、学びが深まり大きな成果を得られた。来年度も授業公開・授業協議会を予定している。その際、授業公開を依頼する学校との連携を密にし、よりよい授業を目指すことが来年度に向けた課題である。